

B-29 保管中の諸条件とかびによる機能変化 — 簞笥の素材と温湿度について —
愛知淑徳短大 古田幸子 ○足土清恵

目的 長期間被服を簞笥に保管中に、かびの発育により着用不能になる場合が多い。この被服の保管場所としての簞笥を取り上げ、材料の組成、水分率を測定した。次に簞笥の水分率測定を行ない、さらに簞笥開閉による簞笥内外の温湿度の影響を検討した。

方法 簞笥の素材として桐(国内産)、桐(輸入物)、ラワン、ジョニコンを供試材料として、木粉にした後、冷水抽出物、温水抽出物、4% NaOH抽出物、エーテル抽出物を定量し、各材の水分率をM-8A型 Kett 木材水分計により測定した。さらに一般家庭の簞笥の水分率を、平家木造、高層住宅、土蔵について測定した。

次に、実験室に桐およびラワンの簞笥を設定し、内部に絹、羊毛、木綿、合成繊維を収納し、30分、1時間、5時間、10時間、48時間以上毎に開閉した場合の内部の温湿度の変化をRE-20小型電子式温湿度同時記録計により測定した。

結果 桐の水分率は飽和状態で30.5%~36.3%、ラワン14.9%、ジョニコン20.3%であった。簞笥内の温湿度は密閉状態では外気の影響を受けない。各時間毎30秒間開閉後の温湿度の変化は認められないが、湿度の変化は大きく、外の湿度の上昇時に開閉すると高くなり、下降時に開閉すると低下するが、閉じた後は密閉時と同湿度を保持した。